



# 図書館だより12月号



日高高校・附属中学校図書館

木枯らし1号が吹いてから長い期間が経ち、やっと冬らしい気候になりました。冬至に向かって夜が長くなり、家の中で長い時間を過ごすことも多くなりました。皆さんは暖かい部屋で何をしますか？大掃除したり冬休みの宿題にいそしんだあとは、腰を据えて大作に挑戦してみてもどうでしょうか。長期休みは上下巻ある本、文章が難しくて一回通っただけではよく分からなかった本を手取るチャンスです。時間ができたら読もうと思っていた人、それは今！ですよ～

## 冬休み特別貸出

12.11～12.24

貸出冊数30冊

返却期限2025年1月9日

冬休み中(2024.12.25～2025.1.7)

### 閉館します

## はたらく細胞



『はたらく細胞』全6巻  
清水茜著 講談社

12月に公開される映画『はたらく細胞』、和歌山市のポルトヨーロッパでロケが行われたこともあり、県内の映画館では大々的にキャンペーンされています。原作のコミック『はたらく細胞』は図書館にあります。人間の体の中の細胞を擬人化した話で、赤血球が主人公です。ほかにも白血球や血小板といった細胞だけでなく、黄色ブドウ球菌などの悪玉細菌も登場します。読めば生物基礎の人体の単元が頭に入って来やすくなる、これぞエンターテインメントと学習の融合の見本のようなシリーズです。

## 特集展示 5648 殺人がいっぱい

映画『はたらく細胞』のPR動画ではキラート細胞が登場人物紹介ソングを歌っていて、その衣装の胸には「5648」と番号が振られています。これは語呂合わせで「ころしや＝殺し屋」と読むのですが、ちょうど図書館入り口の展示が「殺人がいっぱい」とリンクしたので関連して紹介します。



『告白』  
湊かなえ著 双葉社  
イヤミスの女王、湊かなえのデビュー作。中学校で起こった事件が多くの人間の人生を狂わせていく、もう知らない人のいない国民的ベストセラー。もしまだ読んでいないのならば、すぐ読むべき！

どうしても読んでほしい

『わたしは分断を許さない』  
堀潤著 実業之日本社



つい先日、シリアのアサド政権が事実上崩壊しました。ウクライナでもパレスチナでも、戦争が止みません。世界は争いに満ちていますが、その中で傷つくのは力を持たない人々です。2年生は修学旅行で沖縄に行きます。美しい沖縄を堪能するのも大事な目的ですが、基地問題で揺れる沖縄も肌で感じてほしいと願っています。



『六人の嘘つきな大学生』  
浅倉秋成著 KADOKAWA

就職試験に臨む大学生たちに与えられた課題は、強固なチームをつくりあげて全員で採用を勝ち取る。でも直前で採用は一人だけだ、と変更されて…誰も信じられなくなる、人間不信に陥る本。

『悪の教典 上下』 貴志祐介著 文藝春秋

これぞ「殺人がいっぱい」のタイトルにふさわしい、殺して殺して殺しまくる小説。爽やかな英語教師の本当の顔は残酷なサイコパスで、自分の意に沿わない人間を抹殺していきます。はたして生徒たちは彼を止められるのか、ハラハラしどうしです。



司書の編集後記

校内読書週間の偏愛の世界は百人一首沼でしたが、皆さんは百首全部を覚えたことはありますか？私は40歳近くになって競技カルタを始めて、改めて百首覚えることになりました。中学生の時に冬休みの宿題で出た時は難なくできた記憶があったのに、大人になってから覚え直すのはとても大変でした。間違えて覚えているものをなかなか矯正できないのです。私のウィークポイントは「みをつくし」ということは分かっているのに、何度も札を取り違えてお手つきしてしまいます。「みをつくし」と「なにわ」が強く結びつきすぎていて、「なにわ」が入っていない歌を取り損ねるのです。同じように、常識と言われることでも、なぜか分からないけれども間違いを信じ込んでしまっている、ということもあります。思い込みとは、本当にやっかいなものです。人から言われたことを鵜呑みにしたり、正反対の意見がどちらも正しそうに感じたり、自分を信じて突き進むにはいったん立ち止まった方がいいんじゃないか、ということがありますよね。今、将来をこうと決めてそれに向かって努力していても、ちょっとしたきっかけで違う道が見えてくる場合があります。後から振り返ればどっちが良かったかなんて分からないのだから、自分の思い込みに懐疑心を抱いて世の中を見てほしいです。

# ATTENTION!!

## 延滞している本を早く返してください!



督促状を何回ももらっている人は

### 本を弁償してもらおう可能性があります。